



Title	国民社会の研究 第23巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1962-11-07
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77529
Type	manuscript
Note	『鈴木栄太郎著作集7(国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である(同書内での言及による)。
File Information	1026_0141.pdf



[Instructions for use](#)

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

國民社會の研究

(41)

國民社會學の構成大綱 P.34

第二十三卷

昭和三十一年二月二十三日

A

30

353



意匠登録
No.151492



一 国家所有土地共同権擴張の目的の
集團である。

一 往福の進出と金 非資本主義 4

一 目的は法に因るがためであるが、
下は否

一 金は金上り目的の日本式か競争上昇の
アタリ方式に因るが、行く可能ありや

一 半資本主義の現像は日本では大きく
重要であるが、金上りの目的は

一 高田村の金上り目的はマキム
の目的は

一 日本社会主義の目的
日本社会主義の目的は

一 日本社会主義の目的
マルクス主義の目的は、社会主義の目的は、
あはか

一 日本社会主義の目的
日本社会主義の目的は、社会主義の目的は、
あはか

一 日本社会主義の目的
日本社会主義の目的は、社会主義の目的は、
あはか

一 日本社会主義の目的
日本社会主義の目的は、社会主義の目的は、
あはか

2625 2423 2219 17

1312

二 国民生活を各々構成

一 マルゴミの普及と情

一 統治の内容と統治の組織

一 国民生活の統一構造

一 国民生活を構成大要

日本の丁度と格力の幸運

29

30

31

33

34

37

口家は土地共同協力の為の
目的は集團である

この占領は、¹³ 沢清演令満演

草案第一号 ¹³ 演令

国民生活令 ¹³ 演令

マキーンは口家を政治の目的の為の集團

と見よ、¹³ 演令が統治する例は、¹³ 演令

く政治する為の集團である。然しそれ不可

能なものは統治される者の例にも土地共同

協力の為はそれか他を¹³ 演令に¹³ 演令

の。そんな事を思ふ者が、¹³ 演令

自身の義務が目的か、征服して口を作

るかとも知れぬ。為政者は土地共同

協力の為は口家は¹³ 演令と¹³ 演令

1. 協力の為は口家は¹³ 演令と¹³ 演令

出来たてをその。その方の人民への為の出来
は付帯であると言くつかあると云々。
同色は土地と権力が切実な人民の帯
たてあつた子を充分に理解する事
が出来たかどうかわからない。出来た根拠
には思之。

土地共同の様は為政者も被政者も
共に成ると云々である。両方の両共通
の成りには外には強りな強弱の差^は交り
ない。天竺と外能が両共同の
敵であるか来いけ宿命の様い思は
れたい。たまたま多く、外能の可が人
為的対象の対象である。

口境線を強化し

外敵に防す。対東は寧ろ口境線の
亦東以外にはない。口境内の完全占據
は最も限らば必要を可である。

他初物は外敵に完全口守りである。

北極地帯一日の間に一瞬同じなく、自分
の生存を完全の安全に保つ。

の生存を完全の安全に保つ。絶対防衛の要
はなし。

好む。各藩も外敵にせかされてい。北極
地帯。せめてその身は断片の土地を

生存にともなう新視して来る。その
口家も互に存命を地帯を争う。なる

真海相修治が守る。獅子を遠くは
らってこれる。虎にはとんなる。しつがえ

とる。その下である。

ら

ら


ら

徐福の来日と弥生式文化

徐福の来日か中口の神話といふも、何故に日本下は大きく取らぬのか。

拙著に徐福が弥生式文化の伝来に水田経営、銅鏡と
 化、食料、製布、木工、造幣、米の外口、糸、運河設
 け、法、武具、及、文字と文房具に類するもの
 六百人の男、女、老若、幼、一併、元々、水田、耕作、
 技術、を、中、口、に、傳、へ、る、連、接、者、と、し、て、い、う
 不、疑、い、の、事、と、す、る、は、一、定、の、理、由、を、思、ひ、な、す
 ば、よ、い、な、ら、ぬ、と、い、ふ、事、も、あ、り、な、ら、ぬ、と、思、ふ、は、
 通、人、の、目、か、短、日、の、中、に、充、ち、た、種、植、さ、
 べ、た、り、見、做、す、る、よ、う、で、日、本、文、化、の、物、本、明、
 け、が、解、説、し、た、の、徐、福、が、来、た、の、は、西、紀、前、三、百、三、
 十、年、か、と、い、う、事、も、あ、り、な、ら、ぬ、と、思、ふ、は、
 通、人、の、目、か、短、日、の、中、に、充、ち、た、種、植、さ、
 べ、た、り、見、做、す、る、よ、う、で、日、本、文、化、の、物、本、明、
 け、が、解、説、し、た、の、徐、福、が、来、た、の、は、西、紀、前、三、百、三、
 十、年、か、と、い、う、事、も、あ、り、な、ら、ぬ、と、思、ふ、は、

徐福 一、秦、始皇、の、遣、使、の、記、者
 数、千、人、の、船、長、を、つ、か、し、て
 日本、に、渡、り、命、じ、た、張、生、不、老、薬、を
 討、た、り、徐、福、は、秦、の、遣、使、の、記、者、と、い、う、事、も、あ、り、な、
 ら、ぬ、と、思、ふ、は、通、人、の、目、か、短、日、の、中、に、充、ち、た、種、植、さ、
 べ、た、り、見、做、す、る、よ、う、で、日、本、文、化、の、物、本、明、
 け、が、解、説、し、た、の、徐、福、が、来、た、の、は、西、紀、前、三、百、三、
 十、年、か、と、い、う、事、も、あ、り、な、ら、ぬ、と、思、ふ、は、



THE NIPPON KANGYO BANK

中、口、は、帝、皇、に、関、心、を、も、た、す、る、事、も、あ、り、な、
 ら、ぬ、と、思、ふ、は、通、人、の、目、か、短、日、の、中、に、充、ち、た、種、植、さ、
 べ、た、り、見、做、す、る、よ、う、で、日、本、文、化、の、物、本、明、
 け、が、解、説、し、た、の、徐、福、が、来、た、の、は、西、紀、前、三、百、三、
 十、年、か、と、い、う、事、も、あ、り、な、ら、ぬ、と、思、ふ、は、

□ 家統治は□民の力にあよとの計
其不可下はなし

□の外の力か□の力かとの大小を

□を字にその□民を統治して一

と勘合せらる

□家は方の土地の人の民が自ら意

の力に能うつゝその意思を可成り治す

Aに能く人がその人の力に統治

ありとの意思を可成り治す□外の

力が□外の人々の力にAの人を

統治すは其意也

統治は自分が自分を治す

の事と許しはなし。統治すは人に

と統治する人の事別であり又

5

はのほに。福も知人である。今も
ある。良き門家の善は、い
道で、いば、いば。

身力の方の自身が行ふ身力の口家
統御は、かつこの善。
そんな善の中は、善えられたのが
今、保存の概算。

学 上界形は日本製
のアメリカ式に變化してゆく可成りあり
や (綿糸流治) 如日也 (ヤ) 1840年

この同定程は面白く、このは日本の
根本的階層構造とアザリとの根本
的民を平等扱ひ通りの漸進せざるは
こゝのこゝである。あゝゆゑのたは
ホとアをさへに同定するは根本的
的界の在りてを一般に氣にすべし
なり。

日本は今年も平年より、此年証未の
の階層がさへいさし下り力は速
りのほゞなまらう身内符本の合致能後
意の。

三月二十日 病中

17

半軍

半軍の時代は本でなく、半軍

にあたるもの

江戸時代の庶民の如く存在

統治の手段に異動地帯を以て

ある。

序及び統治の手段は、大島上島等の

は武力統治。それ以上は武力。存在

は統治の手段。

五月三日

半軍の時代は本でなく、半軍

階層秩序を固定して、統治の手段

は武力の運用を要する。それ以上は武力

今日

高田母守と金保元とよこまの
コエコエ

コエコエと金保元とよこまの
コエコエ

高田母守と金保元とよこまの
コエコエ

高田母守と金保元とよこまの
コエコエ

高田母守と金保元とよこまの
コエコエ

高田母守と金保元とよこまの
コエコエ

高田母守と金保元とよこまの
コエコエ

高田

口家(底)に
 形の下にある。社会的統
 口良(家)はあり、中(統)の
 形成して、あ(統)の統(下)である。
 社会的

口月(白)

国家の目的 統治

① 生存地帯の確保 (民生の)
(自主国家)

② 支那採取の恒常化のため (第五支隊)
(自主国家)

③ 支那領土の恒常化のため (植民地支配)
(他主国家)

④ 支那領土の恒常化のため (植民地支配)
(他主国家)

⑤ 支那領土の恒常化のため (植民地支配)
(他主国家)

⑥ 支那領土の恒常化のため (植民地支配)
(他主国家)

⑦ 支那領土の恒常化のため (植民地支配)
(他主国家)

⑧ 支那領土の恒常化のため (植民地支配)
(他主国家)

四月九日

⑨ 支那領土の恒常化のため (植民地支配)
(他主国家)

⑩ 支那領土の恒常化のため (植民地支配)
(他主国家)

12

(工業口中央口回)

日本的合理化——日本的生涯

日本は西洋の文化東洋の文化を併呑
く集め、しかもその何れも高次の高い文
化として、日本にある。西洋文化は西洋
で唯一一流の文化であり、日本は東
洋の文化も東洋に於いて一流と認め
る。だから日本は積りたる集積であ
ると解する。人があつて何かが猿ま
ねで出来て皆一流の猿まねである。と。
日本の文化は世界の一流品を皆手
く見、手か多ある。然しよく思小は
日本人は最良の日本人の心を、
最良の西洋人の心を身につけたい

と批評する人がある。日本人及び日本文化を
他者視

然し佛教も學んだ宗族制もは
日本では日本の型となり、極端に切った
孝道徳も服喪の制も、日本では
是よりなつた。文字も佛教の宗も、
日本が佛の宗になつた。日本の宗制、
断然の大作は佛教の宗になつた。か
宗制生活における先づか、教法をとりま
り、過客に修せしむる。

中口や新體の文字は教養人の修め
佛品である。同一の漢文字も日本では
生活上便利な用果である。

伊豆や朝鮮の足組は社交服であり
禮服であるが、日本人の足組は第
御服である。ところが東京でも足組は
服をかえぬ。朝鮮では人があつても
のまゝである。いつか他所へ行かぬ。
余り下も毎日朝鮮の足組はあつた
はよき所々の金儲けかたきり、商人は
その余りを用ふて何となく、日本は
柔術がたい誇り美人も子供も皆一様
に靴履を用ひ、寧ろ靴の足のため
着美合と関係する。

日本では優雅な足組も靴のサリ
いよのつはな

日本の歴史を今更に二語に集めては
 どの用度伝説の取説を証するに
 以下は本が、媒人の百歳の...
 日本のはじめに遼、今才の如く、かたまたま、
 西海船を西海船として用いた、
 然戦地か、うま、
 昔ながら、
 日本、
 戸紅や、
 ぶり、
 ず、
 た、
 花、

11
 今日西海文化の歴史は日本文化...
 洋船は日本の平船に...
 日本のはじめに...
 西海船を西海船として...
 然戦地か...
 昔ながら...
 日本...
 戸紅や...
 ぶり...
 ず...
 た...
 花...

口民社會。普成

一、民族

後學

一、言語

後學

一、政見

後學
共通語
自序

一、信仰

後學
無自序

一、地位

有

一、階級

有

一、職業

有

一、國境

古

18

一、依存口
一、無給自送性
無招 無招

四月二十四日

マクスウェルバーの都市研究のどこにも見ることが
出来ぬ。あまや。

マクスウェルバーの都市研究では都市は
市民権を有する市民の自主的生涯書

同作であるが、大に特徴をもっている。市民
が互選による選挙権を有する。裁断権

を有している。又選挙力をもつ。この自治体
を形式としていた。大なる都市は、
中世の都市の形を有する。都市は、
中世の都市の下。アレスには、
見られる。その下

あった。アレスの都市は、
家産制である。
のもので、都市ではない。

自由と平等と合議と平和を基礎として
近代的な市民権の成長の場として中世の

北陸の都市は、
現存の都市は、
見られる。その下

日本に於ける
第一次集團と第二次集團

日本に於ける第一次集團と第二次集團
（第一次集團は藩閥、第二次集團は政黨）
義政人情學で學ぶべきは、
第一次集團は藩閥、第二次集團は政黨、
藩閥と政黨、總評と政黨）は、
今視して、
第一次集團の佛を、
は中か故。

四〇二九〇

待
占

略号图例一版

WTO 世界贸易组织

NAFTA 北美自由贸易区

WTO 国际贸易组织

EEC 欧洲共同市场

FTA 欧洲自由贸易区

ECU 经济合作与发展组织

SEATO 东南亚条约组织

待品
占
下
紙
の
期
は

日民社論が厚紙の結いひ

一日本では家産の累としての天皇制

國家を擁護し王民を口家の完

成 完全なる

二その次に世界連邦の實現の為

に努むるべき

一九二五、二六、新報

日本の経済的発展
と関係がある

本日は経済的発展の必要を、
「家産的習慣的」の家産的復興の
既に終ったとすると、この後、
の建設に好意をなすもの、
家産的の家産的、
の聯合として、
す可なり、
家産的の家産的は好意をなすもの、
の必要

リ窮乏のあり、最も口足である。

農村は農民が生活しているところであ

る様に日本の長官は道口民が学術

をいふのである。

日本にもお経持しに来た政府が設立

した口糧は日本国民の生活の基と

外に断つて切断してゐる。

口糧の増進の昔程は政府の改修し

一完したよるに、この二年多後の

同に抑も、変化してゐる。これは

日本の国民生活は、何となく同一性を保

つて来た。政変も、幾となく口糧も

厚くあつて、けねと、口家統治の大権

29

が完全な杜絶した時期は強と云かつ上。
政敵が皇室に大子法をた大権を
とる人が次ぎく口待たかたえ上い権に
録治厚は扱は身なく文の大権の寵を
わこつていへる水程漸くよの商賈は他
はたのいへるあつた。
と名の取り巻きの

この制りのよの商賈は天皇は古代かり
猶占しよるとつとを第た。封建時代に
將軍の号をもよへつた商賈振りは弊
あつた。

28

人口の増加は、手立、活動、生活、交通、
の発展の脈絡を有する。

日民社会の各要素構成

一、口増の居住人口の口籍別、国籍別
構成（日本国民、朝鮮人、支那人、アイヌ
、白人等）

一、日民社会の階層の構成

天皇より庶人まで、
各種の地位

一、日民社会の集落形態の構成

村、町、市、行政区域、交通路
外、人口の居住分布

一、日民社会の生産別構成

機、同、可、及、人口の量別、立、地的、表示

一、行政機関の大小別、立地と交通路線の
量別表示

以上

① 世の日本の本質は、統治活動は、
その実、何と云ふべきか。

行政の中心は、統治活動を以てするが、
行政も統治も、その目的を以てするが、
統治も行政も、その手段を以てするが、
統治も行政も、その目的と手段を以てするが、
統治も行政も、その目的と手段を以てするが、

政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、

政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、

政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、

政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、
政治は、強者が弱者を以てするが、



マスコミの世評

日本の伝統文化と船乗りの文化

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一世の世評、政治活動

一 統治の原理と統治の形態

統治者の家系を導く。口は最高位の統治水準を維持したと云へる。

統治形態は近代社会では一律化、

口民本精神である。統治者も民本精神が

口年長者制である。財力も口民本

と世界共通である。口民本精神が

の實現。口民本精神が口民本の

口民本精神が口民本の

一 統治の原理と統治の形態

二 統治の形態と統治の原理

三 統治の形態と統治の原理

四 統治の形態と統治の原理

五 統治の形態と統治の原理

五、家法と無作の社会

六、口民社会と夫婦家股

七、共済社会と他人主社会

八、永久の社会と永久の社会

九、社会の発展と社会の発展

十、社会の発展と社会の発展

このか

又の口民(常民)としての体験より理解して行く。

①(三) 口民の生活構造

A. 農業生活

B. 副業生活

C. 余暇生活

D. 経済的支配の活動

口民の生活構造

生活構造の動的把握

生活構造の動的把握

四

e 口民生活の動的把握

資本主義的増殖の遂行と夫帯家族型の一般化の初期の工業的意義

成長過程(動的過程)としての口民生活

口民生活の諸相 大衆 Nation Community

口民生活の諸相

口民生活の諸相

a. 農村生活

b. 農村生活

農村生活

口民生活の諸相

口民生活の諸相

口民生活の諸相

口民生活の諸相

口民生活の諸相

口民生活の諸相

口民生活の諸相

口民生活の諸相

口民生活の諸相

日本山王堂の書

一、孫の式年表の入り口より、経果の別所、

弟作の同姓、孫の入り口より、孫の別所、

は口内の実力の、孫の別所、

二、孫の別所、孫の別所、孫の別所、

孫の別所、孫の別所、孫の別所、

の孫の下、孫の別所、孫の別所、

と、孫の別所、孫の別所、孫の別所、

咽代、孫の別所、孫の別所、孫の別所、

と、孫の別所、孫の別所、孫の別所、

万、孫の別所、孫の別所、孫の別所、

と、孫の別所、孫の別所、孫の別所、

孫の別所、孫の別所、孫の別所、

孫の別所、孫の別所、孫の別所、

い身をいれし神... 仙翁... 中... 大... 漢... 車... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

